

質疑応答(要旨)

Q1	貴金属事業は他社にとって新規参入障壁が高い事業なのでしょうか。
A1	<p>当社の貴金属事業においては、電子部品の端材や不良品、歯科材などから金などの有価金属を回収しております。</p> <p>当社のように薬液に有価金属を溶かして回収する手法や、熱処理により回収する手法など、複数の手法がございますが、いずれの手法であってもまとまった金額の設備投資が必要となります。</p> <p>また競合他社と競える段階まで、貴金属の回収率や純度を高めるためには、高度な技術知見が必要となるため、客観的に見て参入障壁は高いと分析しております。</p>
Q2	貴金属の価格下落以外で想定されるリスクは何ですか。
A2	<p>当事業年度において想定されるリスクについて回答いたします。</p> <p>主力事業である貴金属事業においては、国内メーカーの電子部品等から金(Au)を回収しておりますが、海外企業との国際競争の結果、お客様の生産量が減少することで、当社が取り扱う金の量が減少するリスクがございます。</p> <p>当社の売上の大半は金によるものであるため、LiB再生事業などの新規事業創出によりポートフォリオを再構築し、金への依存度を下げていくことが重要であると考えております。</p>
Q3	他社と比較したアサカ理研の技術優位性について教えてください。
A3	<p>当社のコア技術として、貴金属の分離・精製技術と選択的剥離技術がございます。</p> <p>分離技術では貴金属のスピーディーな回収と高回収率を実現しており、納期やコストの面で優位性を確保しております。</p> <p>また、選択的剥離技術では独自の薬液配合や溶解速度をコントロールすることで、お客様からお預かりした母材を痛めることなく、回収したい貴金属のみを回収する、高品質な洗浄を可能にしています。</p> <p>いずれの技術も貴金属事業にて培われた当社の強みであり、当社の競争力に直結しているものです。</p>
Q4	2025年9月期は既存事業のどの事業が伸びていると認識していますか。
A4	<p>金相場の高騰やお客様への提案型営業が順調に進んだことで2025年9月期は金を取り扱う貴金属事業が最も伸長いたしました。</p> <p>こうした追い風となる事業環境を活かし、26年度以降も堅調に収益を獲得してまいりたいと考えております。</p>
Q5	LiB再生事業を進めるうえで、どのようなリスクを想定していますか。
A5	<p>国内で使用済みの廃棄されるLiBが大量に発生するのは、2030年代後半となる見通しであり、原材料の確保がLiB再生事業を進める上でのリスクであると考えています。</p> <p>このリスクをヘッジするために、当社は生産工程で廃棄されるLiBもターゲットとしてリサイクルを行います。LiBメーカーである、プライム・プラネット・エナジー＆ソリューションズ様の製造工程で発生するLiB工程廃材の一部のリサイクルを当社が請け負う覚書を締結しており、当社いわき工場の稼働開始時点で工場の最大生産量に見合った材料を確保できております。</p> <p>足もとのEV市況を踏まえたうえでも、しっかりと収益を確保できると試算しております。</p>

Q6	金や銅の相場変動に伴うリスクをどのようにヘッジしていますか。
A6	<p>当社のビジネスモデル上、基本的には金や銅の相場が高い方が当社事業にとって追い風となります。</p> <p>仕入後に貴金属の相場が下落するなど、急激な相場変動は少なからず当社業績に影響が見込まれることから、仕入と同時に、販売先と販売価格を約定するなどの方法で相場変動リスクをヘッジしております。</p> <p>また、半導体や水晶振動子、コネクタ、歯科材料など、複数の業界から原材料を集荷することで原材料の仕入れ先を多角化しております。</p>
Q7	競合に対して優位性を維持するために強化していきたい技術や体制はありますか。
A7	<p>当社は、これまでの技術開発において、既存技術を派生させることで事業を拡大してまいりました。</p> <p>研究開発用のプラントを自社で設計するなど、目的達成のためにスピード感が当社の強みであり、今後も強化していきたいポイントです。</p> <p>自分たちで考え、試せることから1つずつ試していく開発スタイルを既存事業やLiB再生事業においても活かしていき、大企業に勝るスピードで優位性を維持してまいります。</p>
Q8	なぜこのタイミングで株主還元策を打ち出したのでしょうか。
A8	<p>当社は、11月14日の決算発表と同日に今後の配当方針について開示いたしました。</p> <p>2026年9月期より下限配当制度と中間配当を導入することや、将来的に配当性向30%以上、株主資本配当率(DOE)3.0%以上の継続を目指すとお示しております。</p> <p>LiB再生事業への投資額が確定し、キャッシュアロケーションの見通しの確度が高まる中で、LiB再生事業による収益が安定化した後の中・長期的な株主の皆様への還元方針を公表させていただいたものでございます。</p>
Q9	金融機関からの借入額が大きいが増資による資金調達の可能性はあるのでしょうか。
A9	<p>現時点で増資による資金調達の計画はございません。</p> <p>一般的な増資では、既存株主の皆様の権利が希薄化してしまう等のデメリットも想定されるため増資を伴う資金調達につきましては、現時点で考えておりません。</p>
Q10	EVIに使用される電池の主流が全固体電池になった場合はLiB再生事業にどのような影響があるのでしょうか。
A10	<p>当社が現在取扱いを想定しているのは、全固体電池ではなく、電解液を含んだリチウムイオン電池です。</p> <p>現時点でリチウムイオン電池にて当社の工場のキャパシティ見合いの原材料を確保できる見通しであり、当面はLiB再生事業への影響はございません。</p> <p>一方で当社が保有する技術は全固体電池に対しても充分に応用可能であると考えており、今後の市場動向を踏まえて適宜対応を進めてまいります。</p>

Q11	適正な株価水準についてどのように考えているのか教えてください。
A11	<p>株価は市場にて決定されるものであると考えておりますが、株主資本コストを上回る収益性を維持することで、株主の皆様からのご期待にお応えしたいと考えております。</p> <p>具体的にはROICが株主資本コストを上回る状態の維持を目指しております。</p> <p>現状は、LiB再生事業への設備投資に伴い、当社のROICは株主資本コストを4～5%程度下回っておりますが、LiB再生事業による収益を確保することにより、ROICを上昇させていく計画でございます。</p> <p>また、株主還元につきましても段階的に強化していく方針であり、業績と株主還元の両面から企業価値を向上させることで、株主の皆様のご期待にお応えしてまいります。</p>

(ご留意事項)

この資料は、当社説明会にご参加できなかつた方のためのご参考として掲載しているものであり、説明会でお話した内容をそのまま文章に起こしたものではないことをご了承ください。